

青柳川の風景

古賀市内を流れる河川には大根川と中川がある。大根川を遡ると古賀橋の少し上流で青柳川に分かれる。

市内西部から南西部の大地を潤し、古賀の平野の一部分を形成している青柳川は、市内最大の工業団地の側を流れ、上流に行くにつれて用尺川・谷山川・小山田川・薬王寺川と分流してフォーク型になっている。

青柳川は『福岡県地理全誌』（明治5年より調査、同13年成立）には青柳村を流れる新川と記載され、「東.的野村界ヨリ流来リ。村ノ東北ヲ過テ。筵(マ)内川ニ入ル。長千三百二十間。幅四間二尺。平水八寸。満水五尺。石橋一所。橋本。」とある。

同書では谷山川は河内川と表記されて川原川と合流し、小山田川と薬王寺川は川原川と表記されて、川原川は小山田、川原、今在家の三村を経て新川に落ち合うとされる。

青柳川では、近年サケの母川回帰がみられて話題になり、青柳小学校の児童によるサケの稚魚の放流が行われた。しかし、一方で工業団地の側を流れる川の河川敷のゴミの数の多さには驚かされる。



谷山川との分岐点付近



グリーンパーク付近の青柳川

新宮町的野の山あいまで源流がたどられる青柳川。その的野との境界をなす小竹区篠林地域では、平成26年にできる大型物流団地建設のための造成工事とともに発掘調査が行われ、考古遺物も確認されている。九州自動車道古賀インターチェンジから久山方面につながる主要地方道（県道35号）沿線の、古賀市総合運動公園（古賀グリーンパーク）や地域の人々の食をあずかる生産者直売所「コスモス広場」がある。

このグリーンパークの丘陵地には「馬渡・東ヶ浦遺跡」があり、一つの甕棺墓から4本の青銅製武器が出土するなど多数の墓が発掘された。弥生時代には青柳川を中心に農耕文化が発展し、有力者が存在したことがうかがわれる。



新宮町の的野の集落を通過して、川の流れを犬鳴の山なみの方にたどっていくと、杉、桧の林が続き、奥は関係者以外の立ち入りが禁止されていた。

青柳川にかかる5本の橋

下流から石ヶ崎橋、国道3号の谷山川橋、青柳小学校横の唐津街道の橋本橋、グリーンパークから工業団地に伸びる道路の馬渡（ひんど）橋、北筑昇華苑から小竹地区への道路の鰯田（するめだ）橋と、それぞれに特徴がある。

橋本橋は唐津街道青柳宿西構口から西に100mほど下った街道筋にある。この橋は明治初期には石橋であったが、現在の橋は平成17年1月に架け替えられている。

遊歩道「歩いてん道」古賀コース（市役所から古賀グリーンパークまでの約4.5km）が川の右岸に整備されており、市民の健康と憩いのスポットにもなっている。

馬渡橋は古賀市内に数ヶ所存在する橋名で、そのうちの 하나가青柳川に架かる。名称は、その昔馬で渡ることが多かった川に架けられたとする説や、ヒヒンという馬のいななきに由来するという説などがある。平成10年11月に架け替えられている。

鰯田橋は昭和54年3月に架けられて現在に至っている。「するめ」という名称が大変面白く、字も地元の人を除けば読める人は少ないのではないだろうか。

馬渡橋も鰯田橋も明治初期には土橋として架けられていた。



参考：『古賀町誌』1985、『福岡県地理全誌』（『福岡県史』1988所収）